

東京の中小企業振興を考える有識者会議  
(第3回)

日 時：令和3年2月8日(月) 午前11時00分～  
場 所：第一本庁舎7階 大会議室

## 午前11時開会

【土村商工部長】 それでは、定刻となりましたので、これより東京の中小企業振興を考える有識者会議を開会いたします。

本日は、ご多忙にもかかわらずご出席いただきまして、誠にありがとうございます。

事務局を務めております産業労働局商工部長の土村でございます。議事に入るまでしばらくの間進行役を務めさせていただきます。

初めに、本日の委員の皆様の出欠状況についてご報告させていただきます。本日は、委員12名中11名の皆様にご出席いただいております。鵜飼座長を除く委員の皆様には今回テレビ会議でのご参加をいただいております。

続きまして、お手元の資料の確認をさせていただきます。本日の会議はペーパーレスで行います。お手元には、議事次第と座席表、資料1「東京の中小企業振興を考える有識者会議」委員名簿、その他の資料は卓上のタブレット端末でご覧いただくことになります。よろしくお願いいたします。

それでは、この後の議事進行につきましては鵜飼座長にお願いしたいと思います。よろしくお願いいたします。

【鵜飼座長】 それでは、今日も議事次第に従って進めさせていただきますと思います。オンライン独特の緊張感がありますが、よろしくお願いいたします。

それでは、初めに、外国人材活用に関する検討会にて作成いたしました動画についてご覧いただければと思います。

議場にいらっしゃる方々は前方のモニターをご覧ください。

それでは、山本委員、よろしくお願いいたします。

【山本委員】 山本です。おはようございます。

時間がないので、本会議の下部組織であります外国人材活用に関する検討会で半年間にわたって議論を重ねまして、東京で生き生きと働く外国人のロールモデルを表すPR動画を作成しました。事務局の方々のご尽力もありまして、外国人の方が東京で働きたいと思っただけの内容になったかと思えます。一部私の思いも入っておりますので、ぜひよろしくお願いいたします。

どうぞ。

## 〔 動画上映 〕

【動画ナレーション】 さぁ行こう。

さまざまな企業、人々が活躍する都市、東京。

東京なら出会える、まだ知らぬ広い世界とゆとりを生む環境。

自分にあったワークスタイルで、心が安らぐひとときを。

東京なら、もっと輝ける。

東京で働こう。

【山本委員】 ありがとうございます。

今、東京タワーから多摩・高尾山、そしてスカイツリーと東京の魅力を見せながら、東京都が今まで取り組んできたテレワークとか、保育所、いわゆるライフワークバランスの充実、あるいはキャリアアップといったところをロンドンやニューヨークにはない東京の魅力として捉えて、動画で広く発信したいと思ってつくりました。今は日本語版ですが、これから英語版、あるいは中国語版、その他の言語に直しまして、広く作成しているところです。以上です。

【鶴飼座長】 山本委員、ありがとうございました。

それでは、ここで小池知事から一言ご挨拶をいただければと思います。よろしくお願いします。

【小池知事】 皆さん、おはようございます。オンラインで皆様方の元気な顔を拝見しております。山本先生は森の中でいいですね。大久保さんも。

皆さん、それぞれのバックグラウンドを抱えてこの有識者としてご参加いただいて、これが今年度最後の会議となります。東京の中小企業振興を考える有識者会議でございますけれども、とにかくこの1年間、この年度というのは最初から、あと2か月、1か月ありますけれども、本当にコロナに始まり、コロナに終わりたいというふうに思っておりますが、今日がまた、申し訳ありません、緊急事態宣言の延長の最初の日であります。

いましばらくここは皆さんとともに、感染しない、感染させないということできっかりと抑え込んだ上で、またこの厳しかったマイナスの部分の逆にピンチをチャンスに変えるんだという皆さんとの意識の共有や知恵の共有、これらを進めていきたいというふうに考えております。

令和3年度、ピンチこそチャンスと捉えて、新たな飛躍を実現する施策を展開するというこれが方向性でございますので、まさにそういった意味でこの有識者会議で、また東京の経済を支える中小企業の方々の方がさらに元気になったり、アップグレードして進んでいく、そういう状況を続けていきたいと思っております。

また、PR動画では、テレワークが進んでライフワークバランスが実現をできて、さらに様々な職場で外国人の方が輝ける都市だということが伝わってまいりました。山本先生のこだわりも大分伝わってきました。

昨日、ミャンマーの人たちが大きなデモをしていらしたでしょう。全国から3,000人ぐらい集まったというので、ミャンマーの人ってこんなにたくさんいらして、そして、やはりそこで私たちは自由に声を挙げなければならない、民主主義を本当に確保していかなければならないということをこの東京の場でおっしゃっているということは、それらは私たちは日本にいると分からないありがたさがあるのだろうと。それを日本で雇用の場を提供すると同時に、人手不足の部分、今はなかなか雇用が大変な状況ではありますけれども、そういった大きな観点で見直していくということが必要なのではないかと思います。

また、この間、接触を避けるという意味でテレワークにご協力いただけてまいりました。一時期テレワークが大きく伸び、それからまたやっぱりこれじゃ仕事にならないとかいろ

んなことがあって少し戻って、さらにこれを改めて強めていただくように、テレワークを導入していただくように、また東京都でも様々な支援策を講じているところでもあります。

都として官民一体で「テレワーク東京ルール」実践企業宣言という形でスタートいたしましたところ、現在の参加企業ですけれども、約500社になりました。この際、働き方改革、テレワークを一気に進めていく。それが当たり前の働き方の1つとなること。

それも、中小企業にとって、いろんな業種がありますけれども、一つの新しい切り口として成長する在り方、また社会の子育てや介護と一緒に進めるような、そういう環境をつくっていくということは、今のコロナ禍というのは、様々な新しい発見や、また日本、東京を見直すことにつながっているというふうに考えております。

今日のテーマでありますけれども、こちらに鶴飼先生に来ていただいております。この後、進行をお戻ししたいと思いますけれども、来年度の取組の方向性をテーマにしていきたいと考えております。本当にこの1年間で大きな大きな壁にぶち当たりながらも、それをどう乗り越えて破っていくのかが大きなテーマかと思えます。

東京の経済を守るということは日本経済を守ること、発展にもつながってまいります。どうぞ本日の会議、皆様方の忌憚のないご意見を生かして、そして東京都としてしっかりその流れを皆様とともにつくっていきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

私の冒頭の挨拶とさせていただきます。よろしくお願いいたします。

**【鶴飼座長】** どうもありがとうございました。

それでは、会議の途中ではございますが、ここで知事が公務の都合によりご退室となります。

それでは、本日の議題に入りたいと思います。

初めに、事務局より来年度の取組の方向性について説明をお願いします。

**【土村商工部長】** それでは事務局から、「東京都中小企業振興ビジョン 来年度の取組の方向性」についてご説明いたします。

今回の資料は、今年度委員の皆様からいただいたご意見などを踏まえて取りまとめた来年度の取組の方向性につきまして、1ページ目にコロナ禍の影響と今後の施策展開を、そして2ページ目に、それを踏まえた中小企業振興ビジョンの全体像ということでご用意しております。3ページ目以降は、中小企業振興ビジョンの5つの戦略ごとに取組の方向性として詳細を落とし込んでおります。

それでは、1ページ目をご覧ください。今回の新型コロナウイルス感染症は、経済への大きな影響を及ぼしました。休廃業の急増や資金繰りの大幅な悪化など懸念がされております。一方で、コロナ禍によってもたらされたのは負の側面だけではございませんで、非接触や遠隔対応等のニーズが高まっており、新たな働き方としてのテレワークの普及が大幅に進むなど、これまでと異なる新しい市場分野が広がり、新たなビジネスチャンスも生まれつつあります。

令和3年度におきましては、「ピンチこそ、チャンスと捉えて、新たな飛躍を実現する施策を展開」ということで、具体的には3つの柱を基に様々な施策を実施してまいります。

1点目は、左下、「企業活動を下支えし、事業の継続を強力に推進」という点でございます。事業承継や事業譲渡の一層の円滑化や中小企業の多様な資金ニーズへの対応などを実施いたします。

2点目は、真ん中、「新しい日常における新たなビジネス創出」という点でございます。新ビジネス創出を図る企業の計画から実行まで一貫した支援を行うほか、オンラインを活用した企業の営業戦略の支援や新しい日常における商店街の活性化などに取り組んでまいります。

3点目に、右下、「社会構造の変革を加速化」という点でございます。企業によるDX分野の投資や導入を促進し、スタートアップによるDX推進に資する実証実験などを支援いたします。

さらに、テレワークのさらなる導入促進・定着に向けた支援や、ITなど成長産業の効果的な人材育成確保の推進に努めてまいります。

次のページをご覧ください。今ご説明いたしました内容を中小企業振興ビジョンの各戦略に落とし込んだものとなっております。反時計回りに戦略Ⅰから戦略Ⅴまで図示させていただきます。これらの戦略の細かな内容につきましては、3ページ目以降でご説明いたします。

次のページをご覧ください。初めに、戦略Ⅰ、経営マネジメントの強化についてでございます。左側に具体の事業群、右側にポイントとなる取組を図示しております。

右側をご覧ください。事業承継・再生支援事業についてでございます。M&Aのマッチング支援を強化するほか、サプライチェーン維持のため、新たに譲受け企業のM&A実行費用も助成してまいることとしております。

また、オンライン活用型販路開拓支援事業につきまして、セミナーでの活用事例の紹介のほか、社内の専門人材育成のためのマスター講座や、最近増えておりますオンライン展示会への出展等の支援も実施してまいります。

次のページをご覧ください。戦略Ⅱでございます。中小企業の成長戦略の推進についてです。

こちら右の図をご覧ください。まずゼロエミッション東京の実現に向けた技術開発支援事業ですが、ベンチャーと大企業等とが連携して実施するプロジェクトの事業化支援を実施し、技術開発を支援してまいります。また、生産性向上のためのデジタル技術活用推進事業につきましては、窓口相談、ウェブ相談のほか、個々の企業ごとに専任のアドバイザーによる導入から活用までの支援を行います。またあわせて、人材育成講座や機器等の導入助成も行っております。

次のページをご覧ください。戦略Ⅲ、起業エコシステムの創出についてでございます。

DX推進に係るスタートアップ実証実験促進事業につきまして、実証実験フィールドを

提供する企業等との仲介・調整などを通じ、スタートアップの新たなビジネスモデルの実証をサポートしてまいります。

また、スタートアップによるDX社会実装事業におきまして、スタートアップのDX製品等の導入に際し、信頼性の判断が困難で導入が進まないという課題もございますので、大企業等への試験的な導入やアライアンス契約等に向けた支援を行ってまいります。

次のページをご覧ください。戦略Ⅳ、活力ある地域経済に向けた基盤整備についてでございます。

右側、多摩イノベーションエコシステム促進事業ですが、ものづくり拠点としてポテンシャルの高い多摩地域におけるイノベーション促進に向けた基本指針を策定し、具体のプロジェクトの組成につなげてまいります。新しい日常における商店街の活性化につきましては、キャッシュレス化等の推進など、デジタル化や感染防止に取り組む商店街を支援してまいります。

次のページをご覧ください。最後に戦略Ⅴ、人材力の強化と働き方改革の推進についてでございます。

「テレワーク東京ルール」の宣言企業に対し、資金調達や人材確保に向けた支援のほか、先進的・モデル的取組の表彰などを実施してまいります。また、コロナ禍に離職された方に対し、トライアルの派遣就労を通じて社内正社員就職を支援するとともに、派遣就労後に正規雇用を行い、定着に向けた取組を行う企業に対して助成金を支給いたします。

雑駁でございますが、以上で事務局からの説明とさせていただきます。よろしくお願いいたします。

**【鵜飼座長】** ありがとうございます。

続きまして、山本先生より、外国人材活用に関する検討会についての報告をお願いします。

**【山本委員】** よろしく申し上げます。先ほど冒頭に動画のほうで見ていただきましたが、それ以外のことについても補足的にご報告させていただきます。

中小企業における外国人材活用に関する検討会を下部組織として設立させていただきまして、2月2日に第3回の最終の検討会を開催いたしました。そして、つつがなく無事に終わらせていただきました。この場を借りてですが、委員の先生方、そして雇用就業部の皆様には厚く御礼を申し上げます。

資料の右側において、検討会において様々な委員の先生方からいろいろな意見が出されたんですが、やはり中小企業と海外の方の出会いの機会というものを創出するため、中小企業に様々な特定技能を含めた外国人採用に対しまして、情報提供とか、相談とか、マッチングの場の提供が必要であるということです。

さらにもう一つ、やはり海外の方々を特別扱いするというわけではなくて、一緒に働く仲間として考えていく視点、それも地域の中で受け入れていく視点、一緒に仲間として考える視点が必要だということが言われました。

これはちょっと強調したいんですが、先ほども言いましたように、東京で働くことはブ  
ラック企業、そんなようなイメージがあるんですが、しかし、実際実態調査をしてみます  
と、極めて優れた休暇制度とか、先ほども言った保育園とか、出産・育児に関する支援と  
か、あるいは最近になるとテレワークですね、そういったものがかなり進んできて、  
さらに終身雇用、社内研修といった日本企業独特のシステムといったところも、外国の  
方々にとってとても魅力的な要素になっているということが分かりました。ただ、なか  
なかそれが知られていないので、それをやっぱり積極的に周知していくことがとても重要じ  
ゃないかなというふうに思っております。

さらに、次のページにいていただければと思うんですが、来年度の取組の方向性は、  
合同企業説明会、マッチングの強化、あるいは2ですね、採用・定着に関する体系的なノ  
ウハウを提供するコース別講座とか、さらに4、テレワークなど働きやすい環境とか、研  
修制度などのキャリアアップの支援、子育て環境、これは私は非常に強調したいんですが、  
といったことが重要かなと思っています。それを情報発信していくこと。

そして、企業側にどうやって海外の方に生き生きと働いていただくかというようなノウ  
ハウを蓄積していくこと、企業側の視点ですね、企業側がレベルアップしていくこととい  
うのが重要かなと思っています。ロールモデルですね。これは先ほど説明したとおりです。

これに対してアフターコロナ、今の現状でもやっぱり海外の方には来ていただきたいと  
いう気持ちはすごく強いし、アフターコロナではさらにそれが強くなっていくと思います。  
こういったことを先ほど見ました動画のほうにまとめさせていただくことができました。

最後5秒だけ頂いて私の思いを言わせていただきますと、最初東京タワーで始まって、  
多摩の高尾山が出てきて、最後スカイツリーになるといったような東京の魅力を入れさせ  
ていただきましたし、保育園のような東京が持っている、ロンドン、ニューヨークにはな  
いような魅力も入れさせていただきましたので、報告とさせていただきます。

ちょっとだけ過ぎてしまいました。申し訳ございません。以上です。

**【鶴飼座長】** 山本先生、ご苦労さまでした。ありがとうございます。

それでは、これから意見交換に入りたいと思います。

ご発言される方は、それぞれのパソコンのミュートを解除してご発言していただいて、  
ご発言が終わったら、またミュートにしていいただければと思います。

では、大体いつもどおりの順番でいきたいと思いますが、初めに大久保委員よりお願い  
します。

**【大久保委員】** 私からは、直近で徴している会員企業の声を含めて意見を申し上げたい  
と思います。

昨年来、東京都からいただいた多くの緊急対策を活用させていただきまして、各企業に  
おいては、テレワークの導入やオフィス、店舗の改装等感染拡大防止策を進めております。  
同時に、オンライン展示会やインターネット通販など、ウィズコロナに対応した新たなビ  
ジネスモデルを構築する取組も非常に多くなってきております。

また一方で、業況回復が見込めない中で、人件費、家賃といった固定費の負担に加えて、感染拡大防止のために新たな取組に伴った経費の増加、借入金の返済負担が事業者の多くにのしかかっています。資金繰りに窮して売上げ回復が見込めない中で、借入れをしても返済見込みが立たないと。金融機関に追加融資を相談しているけれども、難色を示される。そういったことでやむなく休業、もしくは廃業に追い込まれてる事業者が増加することが大変懸念されています。

また、製造業や建設業、ソフトウェア業など足元で業況に大きな変化はない企業からも、手元資金を確保するために急遽借入れを行ったとか、ほかの業種に遅れて影響が生じる傾向があるので、春以降の資金繰りが不安だといった声も聞かれています。

長期化するコロナとの闘いを乗り切り、オリンピック・パラリンピック開催とそれを機とした経済改革を進めるためには、地域経済の基盤である中小企業の足腰を強化することが大変重要だと思っています。東京都におかれましては、今回ご説明いただいた施策でもって中小企業への前向きな取組を強力に後押ししていただくように改めてお願い申し上げます。

現在における最大の課題は、業況回復に苦慮している事業者の資金繰りへの支援であります。さらにコロナが長引き、業況回復が遅れる場合には、追加融資や、または条件変更などの支援が必要になってくると思います。東京信用保証協会等の公的関与や指定金融機関においては引き続き柔軟な対応をお願いしたく、東京都からも周知をお願いしたいと思います。

簡単でございますが、私のほうからは以上でございます。

**【鶴飼座長】** どうもありがとうございました。

では続きまして、大村委員にお願いいたします。

**【大村委員】** 東京都中小企業団体中央会の大村です。よろしく申し上げます。

先ほど事務局からご説明をいただきました東京都中小企業振興ビジョンに係る来年度の取組の方向性についてですが、コロナ禍をはじめとした現下の中小企業を取り巻く社会経済環境やこれまでのこの有識者会議における様々な議論などを的確に踏まえ、そして高い実効性が見込まれる数多くの施策としてまとめられておりますことをまずは評価させていただきます。

次に、来年度の取組のポイントとして、事業継続の下支え、新たな挑戦及び成長産業の強化が挙げられています。東京都がこのような方向性、そして積極的な取組姿勢を示していただけることは、先の見えない不安の中で事業継続に取り組んでいる我々中小企業・小規模事業者にとっては大変に心強いものであります。

内容としては、新しい日常に対応するとともに、今後新たなビジネスモデルを展開していく上で不可欠となるデジタルトランスフォーメーションの推進を目的とした、例えば中小企業新戦略支援事業など多くの施策、そして、企業にとっては血液ともいえる事業資金を支える制度融資、また、テレワークの定着支援などの人材確保支援策が盛り込まれてお



ります。これらの施策は、振興ビジョンが目指すべき姿を実現するために、それぞれが合理的に関連したものとなっており、着実に東京の新たな成長につながるものと思います。

次に、施策の実施に当たってですが、都におかれましては、こうした有意義な施策をぜひとも必要とする企業に漏れなく届けるようにしていただきたいと思います。そのためには、まずは都が各種広報媒体や手法を使って積極的にPRに努めていただきたいと思います。

また、こうした支援策を活用するための手続は、可能な限り簡潔にする必要があります。せっかくの支援策でも、「知らなかった」、あるいは「手続が大変だ」という現場からの声も時折耳にすることがあります。引き続き現場目線に立った取組の促進をお願いしたいと思います。

私からは以上です。よろしく申し上げます。

**【鶴飼座長】** ありがとうございました。

それでは、続きまして桑島委員をお願いいたします。

**【桑島委員】** 商店街の桑島でございます。

来年度の取組の方向性として、新しい日常における商店街の活性化を組み入れていただきました。本当にありがとうございました。また、予算も拡充をさせていただくとのことで、大変助かります。重ねてお礼を申し上げます。

商店街の現状でございますけれども、大変厳しい状況がずっと続いており、閉店や廃業も増えてきております。また、組織からの脱退とかそういう話も出てきておまして、大変危惧をしておるところでございます。

昨年末からの感染拡大に伴い、イベントはもちろん、新春セールなどの商店街の売出し事業も中止せざるを得ず、新年度に向けて商店街の運営をどうやっていけばいいのか、ずっと頭を痛めているところでございます。

一方、地域住民の方々からは、このコロナ禍で不要不急の外出を自粛する中、生活必需品を買うために地元の商店街に足を運ぶ機会が増えたとのことやお話や、これまで知らなかった地元の商店主と知り合うことができ、生活の知恵などの情報をいただいて助かっているなどという前向きな声も聞いております。地域コミュニティを支えていく商店街の役割を改めて実感しているところでございます。

商店街の個店の会員の皆さんは、それぞれのお店に合わせた感染拡大防止策をきちんと行ってお客様に安心感を持ってもらうよう努めており、売り方を工夫して何とか乗り切っていこうと頑張っておられるわけでございます。

次に、本日、事務局からご説明がありました新しい日常における商店街活性化について思ったことを2点ほど申し上げたいと思います。

1点目は、これまでの成功体験を捨てなければならないということです。私どもは、商店街で商売を始めてからずっとまちににぎわいをつくって、フェイス・トゥ・フェイスでの商売を得意としてきました。それ以外の商売のやり方を知らないと言ってもよいかもし

れないくらいでございます。

しかし、この1年コロナに翻弄されてきましたら、もうコロナ前の商売の環境は戻ってこないという現状を真摯に受け止めること。コロナ前のやり方は通用せず、自らが変わらなければならないという覚悟を持つことが必要だというふうに痛感しております。成功体験を捨て初めて新しい日常における商売を考えるというスタートラインに立てるのだと考えております。

2点目はチャレンジです。これからはソーシャルディスタンスを確保し、感染防止対策を徹底した上でのにぎわいをつくって商売するという難しい商環境を自分たちでつくっていかねばなりません。業態転換、SNSやネットを併用した商売、混雑状況を知らせるアプリの導入、さらなるキャッシュレス化など、非接触型ビジネスの展開を図らなければならないと思います。どんなに困難なことにもチャレンジして、先取りの精神を持ち、分からないことは専門家に相談し、とにかくこれまでと違ったやり方にトライしていくことが大事だと思います。

最後に、商店街の存在意義について申し上げます。商店街は、地域住民の日常生活を支えております。地域の実情に詳しい商店街の方々がお年寄りや子どもの見守りや防犯活動など安全・安心な暮らしを守ってきました。イベントやお祭りは有事の際の避難訓練として共助の考えを醸成してまいりました。

地域に暮らす人々と商店街のコミュニティはセーフティネットとして不可欠だと思います。感染拡大防止対策を徹底してお祭りやイベントを行うことは商売の枠を超えて暮らしを支える機能がございます。商店街チャレンジ戦略支援事業を活用し、新しい日常における商店街の運営を図りたいと思います。引き続きのご支援をいただければ幸いです。

以上でございます。ありがとうございました。

**【鵜飼座長】** 桑島委員、ありがとうございました。

続きまして、村越委員よりお願いいたします。

**【村越委員】** おはようございます。東京都商工会連合会の村越でございます。

多摩地域の中小・小規模企業は、私どもの調査で8割近くの方がコロナショックでマイナスの影響を受けまして、前年度と同じ売上げに戻る見込みがないという企業が約半数近くある。大変なことでございます。

こうした中でも、今後の事業やビジネスを変えていくとする企業が半数近くあります。これは、ただいま桑島会長がおっしゃったチャレンジ、新しいことにチャレンジしていきたいという企業が半分ぐらいあるというのは、ひとつ大変希望の持てるところでございます。

商品やサービスの提供方法の変更でありますとか、新商品や新サービスの開発、営業とか販売方法を変えて新たな経営に取り組んでいくニューライフスタイルといいましょうか、それにチャレンジしたいという方が大勢いるということでございます。

こうした企業の取組を前進させて発展へとつなげていくために、事業継続を強力に支えて新たなチャレンジを後押しする施策が必要なわけですが、新しい来年度計画の中でその充実を図っていただけているのは大変ありがたいことだというふうに思っております。

また、コロナ禍で落ち込む地域経済を活性化するためにも、多摩・島しょ地域の小規模事業者の事業承継と経営資源の引継ぎを支援する取組、そしてまた、多摩地域の企業や関係団体等の連携によるイノベーションの促進の取組ということに予算化されたことは大変ありがたいし、評価できるものと思っております。

ここで1つ、今、東京都商工会連合会が新しく取組もうとしていることについてお話し申し上げます。サテライトオフィス。テレワーク等によって離れて働くということが日常化していくであろうということを前提に、東京都さんでやっていたようなサテライトオフィスよりももっと小さい規模で、いろんなところにミニサテライトオフィスがつかれるようなことを、東京都商工会連合会では各商工会が心をそろえてやっていこうというふうに思っております。

商店街の中にはシャッター街になっちゃうようなところとか、あるいは空き部屋の出るアパートですとかマンションとかあると思いますが、そういうものを簡単にミニの形のサテライトオフィスに改造して、そこで働いていただく。テレワークなり何なりをしていただくということによって、近隣の商店街でお買物もしていただく機会も増えるでしょうし、そしてまた、お子様方を安全に見守っていくということも安心してできるような、そういった新しい形の働き方をぜひ多摩地域から広げていきたいと思っております。頑張っております。ぜひひとつご支援をいただきたいと思っております。

私からは以上であります。ありがとうございました。

**【鵜飼座長】** ありがとうございました。

続きまして、森委員よりお願いいたします。

**【森委員】** 皆様、お疲れさまです。森でございます。よろしくお願ひいたします。

今回の企業振興ビジョンというところをご説明いただいて、我々連合東京としても、これまで失業なき労働移動策といったところを中心に各種要請もさせていただいております。こういったことにもきちっと応えていただいた内容でまとめ上げられているかなというふうにも感じておりますので、まずは都知事、それから職員の皆様のご苦勞に御礼を申し上げます。ありがとうございました。

この後、やはりコロナがなかなか終息が見えないという中で、冒頭の都知事のご挨拶のほうにもございましたけれども、やはりピンチをチャンスにというところ、ここをどうやって日常化していくかということだろうなというふうに思うところです。

今は緊急対応としていろんな施策がなされて、拡充されていくという状況だと思います。細かい話もいろいろとさせていただくこともあるんですけども、当面はまずやはり活用拡大を目指していかなきゃいけないだろうというふうに思っております。活用を拡大する中で、使う側の使い勝手、それからその効果等を見計らってまた先に進めていく。

これが、コロナが終わった頃、終息が見える頃にも、日常的にそういったことが通常の我々の会社であったり、それから働く側の条件であったりというところに非常に効果的に使えるような形になっていけばいいかなというふうなことを大枠として思っております。

今日少しお話し差し上げたいのは、その他で、ビジョンの中でも、我々労働組合といいますか、働く側から見たときに、やはりその中心になります部分、戦略のところではV番目のところ、この辺りの働き方を中心に少しお話をさせていただければというふうに思います。

まず1つですけれども、公的支援の活用促進、職業訓練の拡充といった面で少しお話をさせていただきます。やはり失業なき労働移動ということ考えたときに、今であれば様々な人手不足の業種・業態、企業に在籍出向または転籍といったことができるような形で、産業雇用安定センターが行っているような企業間の人材のマッチング事業、それから、今も国会で審議されていると思いますけれども、産業雇用安定助成金についてといったところで、やはり業界団体と企業に対して積極的に周知をいただかなければならないかなと。それから、必要な企業によるそれらの活用促進も進めていかなければならないと思いますので、ぜひここをひとつ強めをお願いしたいということと、我々もご協力差し上げたいということかと思っています。

それからもう一つ、労働者側という目線からすると、職業訓練の拡充がやはり必要だろうと思います。IT人材等々、DX等も固める中で、やはり実際に移動する人たちの技術力、それからスキルがアップしないことにはということもあるかと思っています。ただ、残念ながら、今はこうやって移動される方の職業訓練のところも、カリキュラムも整備されてはいるんですけれども、残念ながら多数の方がそういったことをやらなければならないということで、なかなかそのサービスを利用できないということも起こっていると思いますので、この辺りについてもぜひ拡充等をお願いしたいということ。

それから、今回のビジョンの中でもありましたけれども、雇用安定化就業支援に関してということで、正規雇用定着助成金等ということで大幅に拡充をいただいております。3.8億円から41億円弱というところで、こういったところも十分に拡充いただいておりますので、ぜひその活用を進めていっていただきたいなというふうに思います。

それから、その活用にあたっては、それぞれ都で提供している支援金、助成金を国が支給しているような助成可能なようなものに対して上乘せでも利用可能とするなど、そういった活用のしやすさ、効果の大きさ、そこを見計らって対応いただけないかということのひとつ申し上げておきたいというふうに思います。

それから、ちょっと具体的過ぎるような話かもしれないんですけれども、テレワーク等の部分については、今も飲食業者の皆さんにテイクアウト、宅配、移動販売等に拡充していく中で、助成金等ということにもなっていくかと思うんですけれども、この辺りの業態変換も見据えて、そういったところが小さいけれどもサテライトオフィス化するとか、違う形での活用をする。こういったところにもぜひ助成をいただくようなことを検討いただ

けないか。それから、制度設計に当たっては、必要な助成額を確保した上で、コロナ終息までできるだけ長く申請を受け付けて対応いただければというふうに思います。

それから、全体に関してなんですけれども、やはり委員のお話の中にもあったかと思えますけれども、我々は、手続が煩雑であったりということは大分それぞれご努力いただいて対応されてきているかなと思うんですが、やはり周知が行き届かない。こういったことに使えるんだけどなということを我々が分かっている、なかなか活用されていないという面があると思っていますので、ぜひこの周知するところについて施策を入れていただきたいと思います。

少し具体的に言いますと、今いろんな案内の仕方があると思うんですけれども、例えば東京都の新型コロナウイルス感染症支援情報ナビといったものもございますので、そういったところに全ての情報を載せてアピールすることとか、それから、今も相談窓口等問合せ対応をいただいていると思うんですけれども、できれば困ったんだという方がまず電話をしてくるとか、話をしに来る、そういう場所が必要じゃないかと思っております、そういった相談窓口としての総合窓口の拡充をぜひお願いしたいなというふうに思っております。

また、そういったことを設置して利用拡大をとっても、それが周知されないということについては、我々労働組合もそうですけれども、今日出席の皆様の各関係団体も含めて、ぜひ協力して周知していくということを考えていったほうがいいかなというふうに思っております。

最後になりますけれども、先ほど山本先生からもいただいた外国人材のというところに関しては、先生もおっしゃっていたように制度は本当に充実しているのだと思うんです。ここもやっぱり周知するのに非常に苦勞するという部分ですし、それから、特に外国人の方ということについてですので、ふだんそういった方たちと触れ合う人たちに周知の協力を依頼するというところもあるかと思えますし、我々労働組合の連合としても、そういったところを日頃からアピールする。

これは外国人、日本人かかわらずなんですけれども、ということなので、そういったところについても我々も協力して周知していく。それが外国人の皆さんのところまで届くようにということも考えながら活動したいかなということを申し上げて、私からのお話とさせていただきます。ありがとうございます。

**【鵜飼座長】** ありがとうございました。

続きまして、細貝委員より、何かこの後退出しなきゃいけないそうですので。

**【細貝委員】** マテリアルの細貝です。なかなかこういうのは難しいですね。聞こえますよね。

僕がひとつ思っていることなんですけど、いろんな先進的な設備投資をするということも非常にありがたく、この6～7年、いろんな無人化の機械だとかそういったものを入れてきているんですけれども、最近、機械の重量も重くなってきたりすると、今度基礎を変え

ていかなければいけないとか、あと、私たちの先輩の会社は、この近隣なんですけれども、6～7社おやめになる工場があるんですね。というのは、50年以上の建物で老朽化して、建て替える資金というものがなくて、事業的にも利益が薄くなってきているというところで、これを建て替えてまでもできるような継続的な資金がないとかという会社様が今6社ぐらいご相談があります。

そういった中でうちも、羽田空港が国際化になって非常に土地の価格も上がってしまって、広げることも難しく、新しいところにも移れず、そういったところで、機械の設備投資だけではなくて、そういった建て替えの支援だとか、もっと先進的なものにつながって収益性が上がるようなものだったら、そういった補助金なども考えていただけるとありがたいのかなんていうふうにも思っています。

あと、外国人人材の件なんですけど、弊社もいろんな国の方々にたくさん入っていただいているんですが、やっぱりお辞めになったりするときに、次の就職先というものが一体となって紐付くようなことをできたらいいのかなんていうふうに思います。やはり技術を教えて、そこからその技術を生かしていただける業種に行ってくれば、2年、3年のそういったものが非常に生かされるんじゃないかなと思うんですけれども、次の就職先が分からないということがよく多いので、できればそういった紐付きができるような制度なんかがあるといいなというふうに思います。

今、私が非常に悩んでいるのは、もう一つはリロケーションなんですけれども、会社を継承するときってM&Aとかいろいろあると思うんですが、例えば血縁でつなぐというときに売れない株を評価しなければいけないというところで、会社を受け継ぐのも金額が非常に要るようなんですね。そうすると、持続可能な資金で例えばその株を買って、次の世代の人たちが運営できるのかというと、非常に大変になる。

ちょっと長期ビジョンなんですけれども、こういった中小企業の売買されていない株を評価する方法を提言していただければ非常にありがたいかなというところと、素朴に事業継承とはそういうところでもつまずきが出てくるのかなとか、資金が非常になくなってしまって、次の後継者が持続できないかなということも出てくると思いますので、こういったところもぜひお考えになっていただくと非常にありがたいかなというふうに思います。

私からの意見は以上です。途中で中座しまして申し訳ございません。皆さん、よろしくお願ひします。

**【鵜飼座長】** どうもありがとうございました。

では、続きまして諏訪委員、お願ひします。

**【諏訪委員】** よろしくお願ひいたします。

私からは、今、細貝社長が言われたように、うちも築40年なので、ぜひその辺りの支援をしていただくと次につながっていくのかなというふうに思います。

あと、山本先生がつくっていただいたビデオは非常に分かりやすく、東京の魅力が出て

いて素晴らしいと感じました。もし次につくる機会があるのであれば、人材が不足している業種というのがイメージできるようなものも入れてもらえるとありがたいかなというふうに感じました。

あと、これはビデオを見ての今後なんですけれども、外国人だけではなく、外国企業の誘致といったものもやっぱり検討することで、日本の中小企業の活性化が見込まれるのではないかなというふうに感じました。

あと、東京都中小企業振興ビジョンに関してはこうやってお示しいただいて、とてもいいことだというふうに考えています。こういう施策を実行するからには、やっぱり攻めと守りのバランスというのが非常に重要になってきますので、そこら辺を踏まえて実施していただきたいというふうに考えます。

あともう一つなんですけれども、外国人の東京で働こうというのがあったんですけれども、今、このコロナ禍で本当に就職できない子たちが、大卒でも全く就職先がないという子たちが非常にたくさんいます。やっぱり私の時代もそうだったんです。私の時代は氷河期世代なんですけれども、大企業神話じゃないですけれども、まず大企業に入らないと一生大企業に入れぬ。終身雇用が前提でしたので、そういうイメージを持っているんですね。

ただ、最近では、大企業も終身雇用というのは諦めたみたいなのを言い出しています、中途採用、キャリアを持った子たちを中小企業から引き抜くという現象が起きています。ただ、今の状態ではやっぱりヘッドハンティングや引き抜きなので、裏切り感がすごく強くて大企業との関係が構築できないんですね。

これからなんですけれども、これはうまくいくかどうか分からないんですけども、中小企業から大企業へ逆に行けるチャンスがあるという道筋をつくってあげる。それをオープンにすることによって、中小企業にはいい人材が入って、力があれば大企業に行けるチャンスがあると。そこでオープンでやっていますので、大企業と中小企業のつながりも強化される。

大企業はプラスアルファ定年制もありますし、50歳になったら出向という形もあります。その出向のときにまた中小企業に、自分のいたところに戻ってこれるような、そんな循環型の大企業と中小企業がウィン・ウィンになるようなキャリアの道というんですか、そういうのも今後考えていくことが必要なのかなというふうに考えました。以上です。

**【鶴飼座長】** どうもありがとうございました。

続きまして、浜野委員、お願いします。

**【浜野委員】** 浜野製作所の浜野でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

ほぼほぼ委員の方々にご意見をいただいた内容と私も大きく変わりはありませんけれども、来年度の東京都の中小企業振興ビジョン、方向性として、本当にこのような大変な時代だからこそ前向き、ピンチこそチャンスと捉えて、新たな飛躍を実現するという施策の方向性、基本的な考え方、小池知事からも力強いご挨拶をいただきましたけれども、まさ

しくそうだなと。いいビジョンの方向性をつくられているなということを感じています。

また、そのビジョン実現に向けた戦略ですけれども、これもかなり私からすると具体的に検討をされていて、本当に前向きに、諏訪さんがおっしゃられていましたけれども、攻めと守りのバランスをうまく取られているんじゃないかなというふうに感じております。

5 ページ目の起業エコシステムの創出という部分で、スタートアップによるDX社会の実装事業ということで、ここら辺のところ、大企業とスタートアップ企業をつなぐのがプロモーターですが、握手している図がありますけれども、必ずしも大企業じゃなくてもいいのかもしれないなというふうに思っています。今は大企業だけではなくて、力のある社会課題を解決したいという中小企業、小規模企業も多く現れていますので、こういう部分も含めて、ある意味組織の規模だとか、売上げだとか、業界・業種にこだわらず、様々な分野からこのことを検討されたいかがかなというふうに感じています。

私が実行委員長をずっと務めている墨田区の工場見学ツアー「スミファ」というのがあるんですけども、昨年9年目を迎えたんですね。コロナ禍ということもあって、初めてオンライン限定で開催をしました。今までは工場に来ていただいて、製品づくりの工程ですとか、品質保証も含めてでありますけれども、職人さんの心意気、志、社長さんの夢だとか思いみたいなものもいろいろとリアルに感じていただくというフェイス・トゥ・フェイスの工場見学ツアーを開催していたんですけども、それができなくなったということで全てオンラインにしたんですね。

オンラインにしたときに、やはり墨田区の工場というのは非常に規模の小さい工場が多くて、家族経営。例えば後継者がいなくておじいちゃんとおばあちゃんがやっているという工房も多くて、そういう方々にオンライン限定で動画配信と、いろいろツールはあるんですけども、そういうことをお願いしたら、半分ぐらいはできないと言って参加企業が少なくなるかなと思ったら、全くもって減らなかったんですね。

ただただオンラインでやりますよ、あとはどうぞご自由に勉強してくださいねと言ってもやっぱりなかなかそうはならないので、動画編集だとか、オンライン開催って実際どうということなのかという勉強会を7回か8回ぐらいやまして、実際に動画をつくってみましょうという勉強会もやったんですね。

そうしたときに、ある年配の女性の経営者でありましたけれども、勉強会の前日にスマホショップに行って、今までガラケーだったけれども、スマートフォンに替えてきたと。今日は説明会だから、スマートフォンに替えて、スマートフォンを持って実際動画を撮ってみようという勉強会に参加をしたんだ。

これが、僕、まさしく中小企業のDXだと思っていて、デジタル化だとかDX化ということになるとすごく大きな枠で捉えがちだと思うんですけども、そういうことの積み重ねによって事業構造を変えていく。こういうチャンスを我々も行政頼みにすることでなく、我々自身からも、民間事業、各組織からもやっぱり発信をしていく必要があるなというふ



うに思っています。

最後になりますけれども、これも諏訪委員のほうからありました中小企業から大企業への出向。現在、大企業からの出向者を2名受け入れておりまして、今年の4月からもう2名大企業から——これはあまり具体的な名前を言うとまずいですよね。鵜飼先生、これは配信されているんですよね。某T社さんという大企業から2年間出向がありまして、お預かりをさせていただく代わりに、その出向が終わったら、我々からも大企業さんに出向させていただくという相互の関係ができるような形で今実装をしています。

恐らくどんどん変わっていく時代の中で、大企業を頂点とした上から下への一方通行的なサプライチェーン、ものづくりだけではなくて、依頼事も含めて、技術伝承・継承も含めてでありますけれども、多分今後はいろいろなツールを活用しながら、上から下への一方通行的な流れではなくて、下から上へ、縦とか斜めのつながりをしていって、こういう活動を東京都の中小企業振興ビジョンの中に我々も一緒に取り組んで入れ込んでいきたいと思っています。以上でございます。

**【鵜飼座長】** どうもありがとうございました。

それでは、続きまして田村委員、お願いします。

**【田村委員】** 日本ベンチャー学会の田村です。よろしく願いいたします。

時間もほとんどないということで、今までの委員の方々がお話しいただいていたように、非常に来年の取組につきましては分かりやすく具体的に書かれているので、これをぜひ実行していただきたいと思っております。

その中で、特に最近私たち学会に中小ベンチャーの経営者のほうからお話がある件を中心にお話しさせていただきますと、マネジメントの強化のところで、オンラインを活用した販路などを積極的に東京都もやられるということで書いてありますが、実際彼らも新しい取組なので少しわくわく感を持ちながら参加しているということといい方向には行っておりますけれども、実際にここに仕掛けがもう少し必要なのかなという気がします。やはりオンラインの前のマッチングの組合せだったり、特にその後のフォローというものを今後さらに強化していただけたらと思います。

私ごとですが、東京都様がやられています東京女性経営者のメンターもやらせていただいておりますが、オンラインならではのよさもありますけれども、その後のフォローということは今後いま一層必要ではないかなということを実感しております。

それと同時に、中小ベンチャーの経営者の方たち、または担当者たちは、オンラインをやることの大切さ、重要性はよく分かっているのですけれども、特にサイバーセキュリティだとか、技術進歩のソフトの開発に対する投資のお金がなかなか捻出できにくいということも聞いておりますので、そこの強化というものをぜひさらに強めていただけたらと思います。

それと同時に、先ほど説明でなされておりました生産性向上のためのデジタル技術の活用のところ、専門のアドバイザーのトータルの支援というのを伝えていらしたと思いま

すが、ぜひここは手厚くお願いしたいと思います。中小ベンチャーにとって人材が大変なので、デジタルだけに特化した職業に専任することの難しさと人材への投資の大変さというのが出てきているのは確かなので、この辺を今後はさらに強化していただけたらと思っています。

最後に、この間もお願いしましたが、5ページにも載っております大学との連携ですけれども、こちらは、今の時代だからこそ、基本の研究にも資金が特にかかる大学発ベンチャーに対する今後のさらなる支援というものをお願いしたいと思います。特に大学発のベンチャーは、先ほど来各委員が、人の流動、大手と中小の流動とかもおっしゃっていますが、大学で文系の学生たちが、最近は理系大学発ベンチャーの支援が目立つということを発表してくる学生もおります。実は、DXというのは、技術を基にしていかにどう活用するかというのが大切なわけなので、理系も、文系も、それから芸術系もみんなが一つのチームになることの大切さを含めた大学発ベンチャーというものの視点というものを強化していただけたらと思います。

簡単ですが、以上、私からの意見です。よろしく申し上げます。どうもありがとうございました。

**【鵜飼座長】** どうもありがとうございました。

知事が退席されたので安心していたら、やはり時間が12時になってしまったんですが、山本さん、ごく手短かに。

**【山本委員】** では、もう10秒で。皆様、どうもありがとうございました。皆様、ぜひ今後、海外人材の方、外国人の方にはすごく魅力的だと思いますので、先ほど言わせていただいたことのぜひ事業展開のほうをよろしく願いいたします。さらに、もしよろしければ、この動画のほうを、私の思いが入っておりますので、何かに使っていただけたらうれしいなと思います。よろしく願いいたします。以上です。

**【鵜飼座長】** どうもありがとうございました。

それから、田路先生からコメントをいただいております、これも短く言いますと、先ほどどなたかもおっしゃったんですが、プロモーターの件ですね、これをぜひ進めていただきたいと。ただ、その効果を最大に引き出すためには、専門性の高いスキルと行動力、責任感を持った小回りの利くプロモーター。必ずしも法人ではなく、個人として活動するような事業者も含めて選ばれるといいというご意見をいただいております。

以上が皆さんのご意見なんですけど、最後まとめる時間がないので、簡単にちょっとだけ言いますと、いわゆるこういう会議だと、今まで以上に皆さんのお話が分かりやすく、提案性に富んだものが今回多かったように思います。これをそのまま文字に起こせば、一つのいい提言集になるような気もいたしました。

その中でも、特に例えば何人かの方がおっしゃっていたいろんな手続の簡潔化ですね。この辺のところはぜひやっていかないといけないなど。

それから、村越さんともう一人おっしゃっていたのかな、空き店舗をうまく、例えばミ

ニサテライトオフィスにするとかいろんな活用の仕方があって、これは多分従来の施策の発想の転換でできるところでもないかなと思いました。

それから、これは都でも随分いいことをやっているなと思ったのが都の職業訓練です。かなり年代と職業の対象となる技能を的を絞ってやっておられたんですけども、こういうことをもっと拡充していくと、いろんな年代のニーズに対応した職業訓練をつくっていくといいのではないかなと思います。

それから、これも森さんがおっしゃっていたのかな。施策の周知の徹底をしていく。平時とは違って非常時ですので、やはり徹底をし過ぎてもし過ぎることはないのではないかなと思います。

それから、あまりこれまで言われていなかったんですが、細貝さんが建て替えという問題が起きてくるよということをおっしゃっていましたが、この辺などはやはりこれまであまり考えていなかったことではないかなと思いました。

それから、中小と大企業の行ったり来たりという発想は、もともと浜野さんはそれに近いことをずっとやっておられて、またインキュベーションもやっておられたので、この辺の発想はもう少し深めていくといいのではないかなと思いました。

ちょっと駆け足になりましたけれども、私のほうからは以上です。

なかなか慣れない中での会議ですけれども、意外に皆さんふだん以上に多分それぞれの委員の方のお話を集中力を持って聞かれていたのではないかなと。これは事務局もそうだと思いますので、非常にいい会議ではなかったかと思います。また、今回はどういう会議、次年度はどのような形になるか分かりませんが、いろんな形で我々も対応できるようにしていきたいと思いますので、今後ともよろしくお願いします。

今日はどうもお疲れさまでした。

**【土村商工部長】** それでは、最後に事務局から申し上げます。

今年度は3回にわたりまして有識者会議において活発にご議論いただきましたことを事務局からも御礼を申し上げます。誠にありがとうございました。

来年度は、今回お示しした施策を中心に中小企業振興ビジョンの実現を図っていききたいと思いますので、今後ともご指導をよろしく願いいたします。

以上をもちまして本日の会議を終了いたします。

皆様、1年間どうもありがとうございました。

午後0時06分閉会